

北京五輪へ！

桜咲く

佃咲江さん北京五輪出場決定

8月の北京五輪自転車女子スプリント競技の日本代表選手に、美幌町出身の佃咲江さん（北海商科大研究生）が正式に決まりました。美幌町出身の五輪代表選手は、過去に3人。いずれも冬季五輪の代表選手として選ばれていますが、夏季五輪出場は初。この快挙に町は歓喜の渦に包まれています。

5月7日、東京で行われた日本自転車競技連盟の北京五輪派遣候補選手の会見。女子の代表選手2名の中に佃咲江さんの名が発表され、晴れて正式に五輪切符を手にするようになりました。早速、13日にしゃきっとプラザで出場報告会が開かれ、佃さんは「北京は挑戦と思って入賞を目指し、次のロンドン五輪にはメダルを」と力強く抱負を述べました。

佃さんは、昭和60年、昭野で農業を営む、佃徹さんの3人兄弟の末っ子として生まれました。

美幌小2年の時に、スピードスケート少年団に入りスケートを始め、美幌中3年まで、河川敷のスケートリンクで練習を重ねました。母美智子さんは子どもの頃の咲江さんのことを「生まれたときから体が大きく、特に脚が太かったことが印象に残っています。かけっこでも負け知らずで足も速かった」と振り返っています。

高校は、スケートの名門、釧路星園高校に進学し、スケートを続けました。

卒業後、北海学園北見大学（現北海商科大学）に進むと、高校の恩師の勧めで自転車に転向。同大学の自転車競技部の中村慎司監督の指導のもと、1年目からインカレなど学生大会をはじめ数々の国内大会で優勝。天性の瞬発力や脚力に加え、スケートで培った持久力は、自転車競技の世界では無敵の強さを発揮しました。



子どものころスケート選手として夢に描いていた五輪出場を、この頃から自転車選手として「本格的に意識するようになった」と語っています。

その後、3年生時にナショナルチーム強化指定選手選考会で優勝を飾ると、国内強化指定選手に選ばれ、北京五輪出場を目指すことに。そして、昨年6月、南アフリカで開催されたB世界選手権大会で優勝。この優勝により、UCI（世界自転車競技連盟）から、JOC（日本オリンピック委員会）に、五輪での日本の女子スプリントの出場権枠が与えられ、五輪代表の最有力候補選手に。そして1年後の先月、晴れて正式に五輪代表選手に決まりました。

出場決定前に組織された美幌町北京オリンピック選手権後援会の鶴野後援会長は「決定を受け、正式に後援会を立ち上げられることは非常にうれしく思います。五輪に向けこれから本格的に活動をしたい」と述べ、土谷町長は「夏の五輪出場は美幌初の快挙。努力をすれば夢は叶うことを美幌の子ども達に教えてくれました。ケガなく万全の態勢で出場し、入賞と言わずメダルを」とエールを送りました。

先月から美幌や北見の路上を中心に乗り込み練習や筋力トレーニングを重ね、今月からの国内大会に出場した後、フランスボルドーでの合宿を経て、本番に臨む予定です。